

福成会の

ちよつと素敵な話

「コロナウイルスが

教えてくれた大切なこと」

No.14



コロナウイルスが現れてから数年が経ちます。

この数年間、しんどいこと、大変なこと、辛いことがたくさんありましたが、学んだことや大切なことにたくさん気づいた数年でもありました。

いつか事業所でもコロナに直面する日が来るだろう…と感染対策をしつつ、恐る恐る日々を送っている中、その日がやってきました。

罹患した利用者さんの情報が入り、初めての出来事で大きな不安に襲われました。事業所は臨時休所することになり、そこからは非日常の数日間でした。

利用者さんは全員自宅待機、スタッフも濃厚接触者は自宅待機、それ以外のスタッフは出勤し、PCR検査、保健所からの助言のもと新たな感染対策の実施、自宅待機されている利用者さんに体調の変化はないか、毎日連絡しました。

第一関門は、全員のPCR検査の実施でした。利用者・スタッフ共に初めての経験で、利用者さんはいつもと異なる状況が苦手な方や病院の受診が苦手な方がたくさんいるので、全員がPCR検査を受けることは困難だろうと思っていました。どのようにしたら感染対策をしつつ、全員が検査を受けることができるかをスタッフと考え、当日を迎えました。

結果、全員が検査を受けることができ、まずそこが一つ大きな喜びでした。健康診断が苦手な方も頑張っていて、

「PCR検査を受けることができた！！」という安堵でした。

検査結果が出たあとは、事業所の再開に向けて、罹患者の体調の回復を願いながら、新たな感染対策や準備に取り組みました。この期間に、みなさまのたくさんの優しさをもらいました。

利用者さんや家族への連絡時は、家族も大変な状況の中でもスタッフへの体調の心配や感謝、労いの言葉をたくさんもらいました。自宅待機のスタッフと勤務しているスタッフがお互いに思い合いながら日々を過ごしていて離れていてもつながりを感じました。

「体調崩さないようにね」と帰る時にお菓子をそっと渡してくれたスタッフ、私の言動について声をかけてくれて、自信をくれたスタッフ、法人内の複数のスタッフが気にかけてくれて、メールやLINEをたくさん送ってくれました。

法人外の関係機関に状況説明の連絡をした時は、共感してくれて、「頑張りましたよ」と言ってくれたこともありました。

今まで感じたことのない不安な日々の中にも、人の温かさをたくさんもらった日々でした。

臨時休所の期間に、クリスマス会の予定がありました。中止になりました。勤務しているスタッフと、「今日はクリスマス会だったね…」と昼食を食べていると、サプライズで2名のスタッフがサンタクロースとトナカイの着ぐるみを着て食堂に登場し、クリスマスソングを歌って盛り上げてくれました。その場がとても明るくなりました。その二人のスタッフの気持ちがとても嬉しかったです。

新たな感染対策について、スタッフで意見を出し合い、協力して進めていきました。自宅待機しているスタッフも含め、スタッフの一致団結をこの期間にたくさん感じることができました。

準備が整い、再開の日を迎えました。スタッフ全員が顔を合わせて一緒に仕事ができる喜び、利用者さんが普段と変わらない様子で登所してくれていること、久し

ぶりに登所できることを喜んでくれて笑顔で来られたことなど、今まで当たり前だった日常が当たり前ではなかったことや、日常がこんなにも幸せなんだということを感じ、今まで福成会で勤務してきた中で一番嬉しい、心に残る日になりました。あの日のスタッフの笑顔と利用者さんの様子が印象的で、おそらく、この日のことはこれからもずっと忘れないと思います。

日常に戻ると、日々の忙しさに、小さな幸せや感謝の気持ちを忘れてしまうことが多々ありますが、この時のことを思い出すと、当たり前毎日の毎日がどれだけ幸せなことなのか、日々大切にしないといけないという気持ちになります。そして、この仕事は一人でできることではなく、たくさんの人たちに支えられて自分自身が仕事をできていることに気づくことができます。これからも何か壁にぶつかった時は、この時のことを思い出すのだと思います。

もう二度と同じような経験をしないことを願いますが、コロナは仕事でもプライベートでも大切なことをたくさん教えてくれたように思います。